

二松學舎大學COEプログラム所藏日本漢文關聯文獻目錄稿本

高山節也編

前言

本目錄は、平成十六年度本學が採擇された二十一世紀COEプログラム「日本漢文學研究の世界的據點の構築」推進の過程で、本プログラムの事業の一環として蒐集された、日本漢文關聯文獻約千六百タイトルの目錄である。稿本を稱する所以は、本目錄の編纂において、プログラム終了年度平成二十一年中の一應の完成を目指したものの、大量の文獻につき詳細を期してはいるが、なお粗漏のあることを予測してのことで、以後の點檢と修正は必至である。その點大方のご批正を請いたい。

本プログラムの蒐書事業は、日本漢文關聯文獻の資料保存とその活用に供することを目的とするもので、いずれの目的においても、これを目録化しさらにはデータ化することは必須であろう。各年度ごとに蒐集された書名データを並行してデータ入力してきたものの、それは購入順による簡易データであつて、書誌や分類等の詳細は購入と同時になされた調査では、諸般の事情により萬全を期することは不可能であつた。本目錄においても、各項目の記載は購入した各書單本によるもので、同系の他本との比較校合による正確を期し得たものは少ない。これらも本目錄の稿本を稱する所以である。

今後各書の書誌の詳細を明らかにし、他本との比較等による出版事項の改訂を経て、本學蒐集本の實態を明確にしてゆ

く必要がある。現在ポストCOEにおける継承事業として、蒐集文献のより正確な目録化と書誌解題を附した解題目録の作成を企圖し、その準備として本目録稿本を編纂したのである。

なおここに蒐集された文献は、刊本を主體としており寫本は一部を除いて別事業として蒐集がなされた。したがって寫本については別にデータを作成して公開しており、また明治以降の漢文教科書も同様に別のデータとして公開している。本目録とあわせてこれらも検索されたい。なお日本漢文關聯文献として蒐集された文献中には、漢文と和文の混合された文献や、もっぱら訓讀體の和文のものもあり、また邦人による附注や邦人による編纂を経たもの、つまり準漢籍や和刻本漢籍もあつて、各書の内容のみによる分類ではかえつて混亂を招く恐れもあり、新たに文體を基準とした分類法を考案し、漢籍關聯文献については別の項目立てを採用することとした。ただ文體中心として各部に分類したものの、類目としては漢籍四部分類のごとく、必ずしも統一した基準に則らない部分もある。たとえば史傳類や景勝紀行地誌類等の項目は、別集類や總集類に該當するものを以て構成される類の問題である。本目録ではこうした分類基準の揺れを敢えて容認したほうが利用者の便に叶うとの判断によるのであるが、分類法についてもより妥當なものに改訂することが望ましく、諸賢のご批正を請う次第である。

以下、凡例にかえて注記すべき事項を列舉しておきたい。

- 一 書名は巻頭の書名を優先し、該當しないものについては版心・序首・題簽等によつた。
- 一 巻立て表示のないものは一卷とし、巻立て表示がなく二冊以上にまたがるものは不分巻とした。
- 一 各書の配列順は、編著者の卒年順を優先し、不明のものは出版年順とした。
- 一 同一分類中に同一編著者による複数の書名が配置される場合は、全て出版年順とし、同一書名が複数ある時は各書の出版年の最も早いものを先頭として出版順に配列した。

一 人名は本名を優先し、○内に字號等を示した。それぞれ不明の場合は臨機に措置した。

- 一 全くの同本の場合は「同」とし、當該書の後刷りや補修本については「同版」として必要事項を附記した。
- 一 同名書でも版を異にする場合は、書名卷數人名等一切省略せず、必要事項全てを記載した。
- 一 各項末の數字は配架番號である。上の數字は函番號、下の數字は函内の配列順を示す。貴重書は各書の通し番號とし、「貴1」のように表示した。
- 一 和刻本漢籍・準漢籍については、四部分類を用いた。

平成二十一年十二月十四日

編者識す

目次

I 漢詩部	
別集類	6
總集類	29
史傳類	36
景勝紀行地誌類	36
唱和類	39
狂詩類	40
II 漢文部	
別集類	43
總集類	47
論說類	49
III 漢詩文部	
史傳類	54
景勝紀行地誌類	59
類書類	61
日記類	61
醫學洋學類	62
笑話類	62
別集類	63
總集類	71
景勝紀行地誌類	72
詩文評類 附語學	74

